

第2回 マレーシアに於ける政権交代

1. マレーシアで5月9日（水）に実施された第14回総選挙（連邦議会下院。定数222議席）に於いて、マハティール元首相率いる野党連合「希望連盟」が過半数の113議席を獲得（その後、サバ伝統党等が加わり、122議席まで増えた）し、与党連合「国民戦線」は79議席に留まり、5月21日にマハティール氏が正式に首相に就任した。これは「マレーシアが1957年に独立した後、初めての政権交代」と言うマレーシア政治史上画期的な結果を意味する。

連邦議会下院（222議席、5年任期）の2018年選挙結果

主要政党別	改選前	当選	増減
A. PH（希望連盟）	68	113	+45
- PKR（人民公正党）	30	47	+17
- DAP（民主行動党）	38	42	+4
- PPBM（マレーシア統一プリブミ党）	0	13	+13
- Amanah（国民福祉党）	0	11	+11
B. BN（国民戦線）	133	79	-54
- UMNO（統一マレー人国民組織）	88	55	-33
- MCA（マレーシア華人公会）	7	1	-6
- MIC（マレーシア・インド人会議）	4	2	-2
- Gerakan（マレーシア人民運動党）	1	0	-1
- その他	34	21	+13
C. PAS（汎マレーシア・イスラム党）	15	18	+3
D. Warisan（サバ伝統党）	0	8	+8
E. STAR	0	1	+1
F. 無所属	6	2	-4
合計	222	222	

* PHはその後サバ伝統党などが連携し、122議席となる
（出所）Economic Commission Malaysia から作成

2. 政権交代の背景

- ①前ナジブ政権の権力の乱用と不正に立ち向かうマハティール旋風に都市部のみならず、農村部の人々も共感し、支持を与えた事。
野党の最大の攻撃対象となったのが、1MDB社を巡る疑惑（後述*参照）。

- ②元々反マハティールだった野党勢力が 2016 年 9 月以降、ナジブ政権攻撃に転じていたマハティール氏と利害を共有する事になり、共闘体制を強化した事。この間、16 年 9 月にマハティール氏は服役中だったアンワル元副首相 (野党連合の実質的なリーダー) と面会して両者が和解し、希望連盟はアンワル氏が服役中で選挙に出馬出来ないの、マハティール氏を首相候補者として選挙に臨んでいた。
- ③ナジブ前首相の強権的な選挙戦略 (与党に有利な選挙区割りへの変更、選挙戦直前に導入した偽ニュース禁止法、マハティール氏が選挙前に創設した政党の活動停止措置、選挙看板からのマハティール氏の写真撤去、選挙投票日の変更等) をマハティール旋風の野党連合が跳ね返した事。
- ④Facebook や WhatsApp 等の SNS が日本よりも浸透していて、政治集会に出なくてもその映像が農村部にも拡散されていた事。

***1MDB 社 (1 Malaysia Development Berhad) を巡る疑惑**

同社は 2008 年に設立された政府投資ファンドで、ナジブ前首相はその経営委員会委員長に就任。その定款では同社の全ての決定事項は首相の文書による承認を義務付けている。

2015 年に Wall Street Journal 紙が同社からナジブ氏の個人口座に 7 億ドルの資金が振り込まれたと報道、同社の経営が赤字で資金流用 (money laundering) 疑惑も指摘され、米国司法省や各国の捜査対象となっている。ナジブ氏は振込は中東の王室からの献金だと弁明し、捜査当局も犯罪性は無いと結論づけた。

3. 与野党の選挙公約

国民戦線の選挙公約

・ 300万人の雇用機会創出
・ 最低賃金を今後5年間で段階的に1,500リンギに引き上げ
・ 低所得者向け補助金増額、新たに月収4,001~5,000リンギの世帯を対象に追加
・ 両親介護者向け医療費控除上限の5,000リンギから1万リンギへの引き上げ
・ 住宅賃貸の所得税免除
・ 外国人メイドの雇用費用削減
(州選挙の公約)
・ スランゴール州:水道問題解決
・ ペナン州:低価格住宅の整備
・ ペラ州:新空港建設
・ ジョホール州:高速道路の車線拡張

(注) 総選挙と同時に州議会選挙も行われた。

(資料)「[総選挙]最低賃金 1500 リンギへ 与党が公約発表、低・中間層に恩恵」(『NNA』2018 年 4 月 9 日)、「与党 BN、政権公約を発表=雇用 300 万人創出、最低賃金 1500 リンギに」(『時事速報』2018 年 4 月 9 日)、より、みずほ総合研究所作成

希望連盟の選挙公約

・ GST廃止
・ 燃油補助金の復活
・ 主婦対象の公的年金導入
・ 最低賃金の全国統一
・ 低所得層が私立病院を利用する際の基金創設
・ 連邦土地開発庁が開拓した土地への入植者に対する債務削減
・ 首相、州首相の任期を2期10年に制限
・ 月収4,000リンギ以下の低所得者に対する高等教育基金への返済停止
・ スキャンダルのある組織を調査する王立委員会の設置
・ メガプロジェクトの見直し
・ サバ州、サラワク州の自治権向上

(資料)「[総選挙]野党連合 PH が公約発表、G S T 廃止など」(『NNA』2018 年 3 月 9 日)、「PH manifesto to focus on 10 promises in 100 days」, *Free Malaysia Today*, 29 March 2018, “10 Things Pakatan Harapan Promised To Achieve In 100 Days If They Win GE14”, *SAYS*, 29 March 2018 より、みずほ総合研究所作成

4. 新政権の閣僚

閣僚一覧

役職	首相	副首相 兼 女性・家族相	内務相	財務相
氏名	マハティール・モハマド	ワン・アジザ・ワン・イスマイル	ムヒディン・ヤシン	リム・グアン・エン
政党(党役職)	PPBM (会長)	PKR (党首)	PPBM (議長)	DAP (書記長)
選挙区	クダ州ランカウイ	スランゴール州パンダン	ジョホール州パゴ	ペナン州バガン
当選回数	9回	5回	8回	6回
生年月日	1925/7/10 (92歳)	1952/12/3 (67歳)	1947/3/15 (71歳)	1962/12/8 (55歳)
民族	マレー系	マレー系	マレー系	華人系
経歴	元首相(1981-2002)	医師	ジョホール州公務員	銀行員
その他	・高度成長の立役者として高い人気 ・アジア通貨危機に際しアンワル氏と対立	・次期首相候補アンワルイブラヒム氏の妻 ・マレーシア初の女性副首相	・元副首相(2009-2015) ・1MDB問題でナジブ首相に反対し UMNO 除名	・前ペナン州首相(2008-2018) ・1974年以来の華人系財務大臣 ・マハティール氏により2度投獄

役職	防衛相	教育相	農村開発相	経済相
氏名	モハマド・サブ	マズリー・マリク	リナ・ハルン	モハマド・アズミン・アリ
政党(党役職)	PPBM (党首)	PPBM (-)	PPBM (女性局長)	PKR (副党首)
選挙区	スランゴール州コタラジャ	ジョホール州シンパンレンガム	クアラルンプール連邦直轄領チチワングサ	スランゴール州ゴンバク
当選回数	4回	1回	1回	3回
生年月日	1954/10/14 (63歳)	1974/7/15 (43歳)	不明 (44歳)	1964/8/25 (53歳)
民族	マレー系	マレー系	マレー系	マレー系
経歴	-	学者(マレーシア国際イスラム大学助教授)	金融機関	アンワル氏秘書
その他	・PAS の元副党首 ・国内治安維持法により2度拘留 ・単刀直入かつユーモアを交えた語り方で人気	・PPBM 創設時メンバー ・多民族・多宗教の共生と寛容を主張	・PPBM 創設時メンバー ・元 UMNO 女性局 Puteri UMNO のセパン支部長	・スランゴール州首相(2014-現在)

役職	住宅・地域政府相	運輸相	通信・マルチメディア相	人的資源相
氏名	ズライダ・カマルディン	アンソニー・ローク・シュー・フック	ゴバイン・シン・デオ	クラセガラン・ムルゲソン
政党(党役職)	PKR (女性局長)	DAP (組織幹事長)	DAP (副議長)	DAP (議長代理)
選挙区	スランゴール州アンパン	ヌグリスンビラン州スレンバン	スランゴール州ブチオン	ペラ州イポーバト
当選回数	3回	3回	3回	5回
生年月日	1958/3/14 (60歳)	1977/4/28 (41歳)	1973/6/19 (44歳)	1957/8/10 (60歳)
民族	マレー系	華人系	インド系	インド系
経歴	・民間企業(豪・日・米の市場調査会社)	-	弁護士	弁護士(労働問題に精通)
その他	・女性イスラム教徒研究開発所(MWIRD)	・ヌグリスンビラン州議会議員(2004-)	・元 DAP 党首カーパル・シンの息子	・ゴム農園労働者層出身

役職	農業・農業関連産業相	保健相
氏名	サラフディン・アユブ	ズルキフリー・アフマド
政党(党役職)	AMANAH(副党首)	AMANAH(一)
選挙区	ジョホール州プライ	スランゴール州クアラセラ ンゴール
当選回数	3回	2回
生年月日	1961/12/1(56歳)	1956/1/1(62歳)
民族	マレー系	マレー系
経歴	銀行員	医師
その他	・2015年PASを離党	・毒物学の医学博士

(出所)各種報道資料よりみずほ銀行国際戦略部作成

<注目点>

- ① 副首相に就任したワン・アジザ氏はアンワル元副首相の妻でアンワル氏が服役中はその代理として野党連合の中心となっていた。
- ② マハティール首相は92歳と言う高齢もあり、元々の野党連合のリーダーであるアンワル氏に首相の座を1-2年以内に譲ると公言している。
 アンワル氏は総選挙後に国王の恩赦を受け釈放されたが、公民権停止措置が継続しているため直ぐには首相にはなれない。今後、この措置の解除とそれを受けての補選でのアンワル氏の国会議員への復帰が焦点となる。
- ③ 財務相に就いたリム・グアン・エン氏は44年ぶりの華人系財務相となった。彼は2008年以来、ペナン州首相として行政改革や経済政策で評価が高い。ナジブ政権では一貫してナジブ首相が財務相を兼務してきており、1MDB疑惑を含め、今後の財政運営が注目される。

5. 新政権の課題

- ① CPTPP (TPP11) の批准をどうするか？
 マハティール氏はこれまで TPP には米国の意向が強く反映されていると批判的な姿勢だが、米国の離脱もあり、今後その姿勢が変化するか注目。
- ② GST (物品サービス税6%＝日本の消費税＝) の廃止と SST (売上・サービス税) の復活
 前政権時代に導入された GST 税率を6月1日付けで0%とし、GST以前にあった SST を復活(9月1日から)させる事となるが、GSTによる財政収入(1兆2,000億円、2017年)を確保するためには以前の税率(10%)では半分以下しか確保出来ず、税率をどうするか注目。

③インフラ建設の見直し（対中政策）

前政権では各種インフラ建設では圧倒的に中国に傾斜していた路線の変更が確実で、既に中国が受注して着工済みの東海岸鉄道（ECRL）の見直しや首都クアラルンプールとシンガポールを結ぶ高速鉄道は建設中止を発表している。後者の鉄道建設には日本のJR東を中心とする日本連合も受注を目指していた。

この他、1MDB絡みの金融特区構想や汎ボルネオ高速道路計画等も見直しとなる可能性がある。

④1MDB 社汚職捜査

今回の政権交代の最大の要因となった本件については、既にナジブ前首相からの事情聴取や家宅捜索（大量の貴金属類等を押収）、首相府に「1MDB 特別捜査班」の設置、関連要人（ナジブ前首相夫妻や法務相等）の国外出国禁止等を次々に打ち出している。近く訴追に関する判断が出るとされている。

⑤「ブミプトラ」政策の行方

1971年から導入された、土着のマレー系と中国系等との間の経済格差是正のためのブミプトラ（土地の子、の意味）政策だが、これまでの実施により、その格差が埋められて来ているのが現実で今後も各種の優遇措置をマレー系人に与えて行くのか注目。

⑥選挙制度改革

総選挙に於ける1票の格差やこれまでの与党である国民戦線に有利な選挙区割り等の是正が行われるかに注目。

⑦「中所得国の罨」からの脱却

マレーシアは世銀による中所得国に該当する一人当たり国民総所得が1995年に4,000ドルを超えたが、高所得国（同12,475ドル超）には未だ達していない。（2014年の10,814ドルが最高）昨年末の世銀予測では2020-2025年に高所得国入りとなっており、マレーシア自身も2020年達成を目標に掲げている。

そのためのカギは労働生産性の向上で、昨年5月にその青写真を策定していてデジタル化の推進等の戦略を示しているが、一方で外国人労働者の比率を15%以下に規制したり、ブミプトラ政策下で能力相応の待遇が得られないとして華人の外国流出が続く等の問題もあり、目標の達成が注目。

以上